



笠松春まつり 伝統の継承と文化の構築

今年は、4月に入ってようやく笠松みなと公園や奈良津堤の桜が満開となり、見頃を迎えました。

昨年は3月の気温が平年より高く、開花がとても早くなりましたが、今年はどうって変わって、3月末から4月初めにかけて気温の低い日が続いたため、ほころび始めた花が開くのに時間がかかると同時に、開いた花がなかなか散らない状況となりました。おかげで長い期間、桜の花を楽しむことができました。

笠松町では、3月25日から4月14日まで、笠松みなと公園で桜まつりが開催され、大勢の人が訪れて賑わいました。夜間にはライトアップもされ、幻想的な趣きの中でお花見をすることができました。これまでの奈良津堤よりも、安全で快適な花見のスポットだと思います。今後は、新たな桜の名所になっていくことを期待します。

また、4月13日から14日にかけて、春祭りが催されました。残念ながら天候の影響で、大名行列などの14日午後のイベントは中止になってしまいましたが、笠松地域は宵祭りとして13日の午後から神輿が繰り出され、産霊神社に奉納されました。14日には予定を変更し、午前中に神輿を出した町内会もあり、何とか実行しようという意気込みが感じられました。松枝地域や下羽栗地域では、おもに14日の午前中に神輿が繰り出され、地域内を練り歩いた後、地元の神社に奉納されました。両地域とも、大勢の参加者があり、町内会の盛り上がりを感じました。

近年、町内会で神輿を出そうとするとなかなか人が集まらず、断念してしまう町内会もあるようですが、笠松の伝統行事を引き継いでいくため、そして町内会内の繋がりを深め活性化するためにも、こういう機会をうまく活用できるとよいと思います。



取材を通して・・・祭りに参加することは町内会のエネルギーがとても必要です。参加者はもちろんですが、縁の下で支えている役員の方々のお骨折りに感謝するばかりです。

